

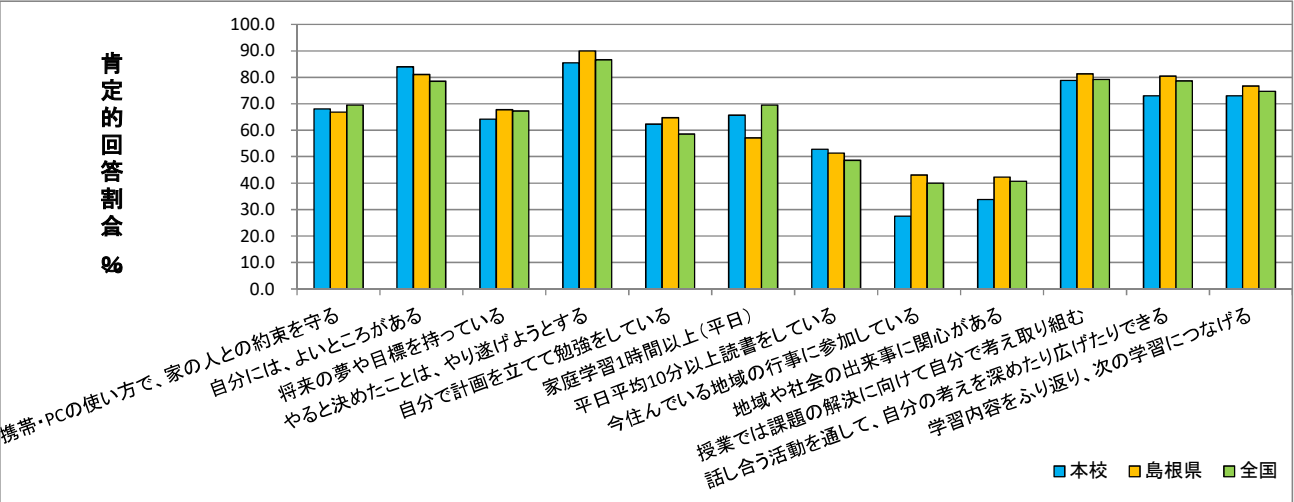
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○知識・技能の平均正答率が高く、漢字練習や新出漢字学習など、繰り返し行う言語学習の成果が出ている。 ●記述式の問題の正答率が低く、無回答率が高い。生徒の読書経験が希薄で、長い文章に慣れ親しんでいないことが原因として考えられる。	・記述式の問題に慣れさせ、無回答の生徒を減らす。 ・物語や説明文などの長い文章を学習する際は、順序立てて、丁寧に文章を読み取る活動を取り入れる。 ・読書活動の推進を図るような学習を考案する。
数学	○毎日の家庭学習で計算練習を課題としており、数や式の知識・技能で成果があらわれている。 ●関数領域の正答率が低い。 ●記述式の問題で、無回答の割合が高い。	・計算練習を中心とする毎日の課題を今後も継続する。 ・授業で数学的な表現を用いた説明や記述する活動を増やすとともに、課題を発展させるなど、展開の工夫をする。 ・関数領域で、式・表・グラフの相互関係が理解できるよう授業を改善する。
理科	○全体的に正答率が高く、ワークや自学で繰り返し復習を行っている成果があらわれている。 ○特に記述式問題の正答率が高い。 ●知識・技能についての正答率が低い。	・実験の結果に対して、自分の言葉で説明させることで、思考力や表現力につなげる。 ・授業の中で過去に学んだ内容を復習したり、基礎的な知識を確かめる小テストを行ったりする。

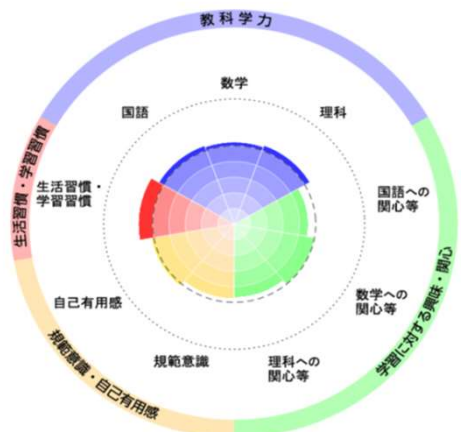
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が高く、学校独自の計画的かつ継続的な取組の成果がうかがえる。 ○自己肯定感の高い生徒が多いので、引き続きキャリアパスポート等を活用したい。 ●コロナ禍で、地域の行事に参加する生徒が少ない。	・計画的な課題学習の取組を継続し、より効果的な家庭学習の仕方について研修を深める。 ・感染症の状況を見ながら、地域の行事やボランティア活動の募集を積極的に行う。 ・短作文やスピーチ活動を活用し、地域の出来事に触れさせる。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・どの教科においても、学校全体で取り組んでいる自主学習の成果が出ているので、やり方を工夫して継続する。
・話し合い活動や課題解決学習がさらに深まるように、学校全体の研究課題として力を入れて取り組む。

【受検者数】

207 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。